

協働の「専門家」へのパラダイムシフトが期待される学校教師
木村優先生（福井大学大学院連合教職開発研究科 教授・研究科長）

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)

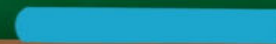
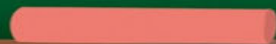


木村 優
きむら ゆう

福井大学大学院連合教職開発研究科 教授・研究科長

1978年、東京都生。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了、博士（教育学）。

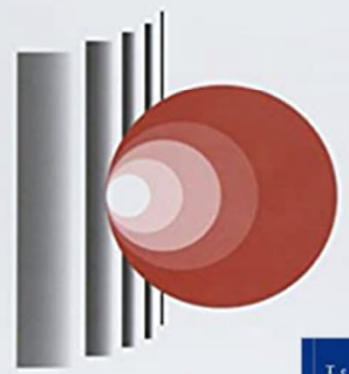
福井大学大学院教育学研究科機関研究員、同准教授、福井大学大学院連合教職開発研究科准教授、ボストン・カレッジ客員研究員を経て、現職。専門は、教育心理学、教育方法学。



情動実践としての教師の専門性

—教師が授業中に経験し表出する情動の探究—

木村 優 著

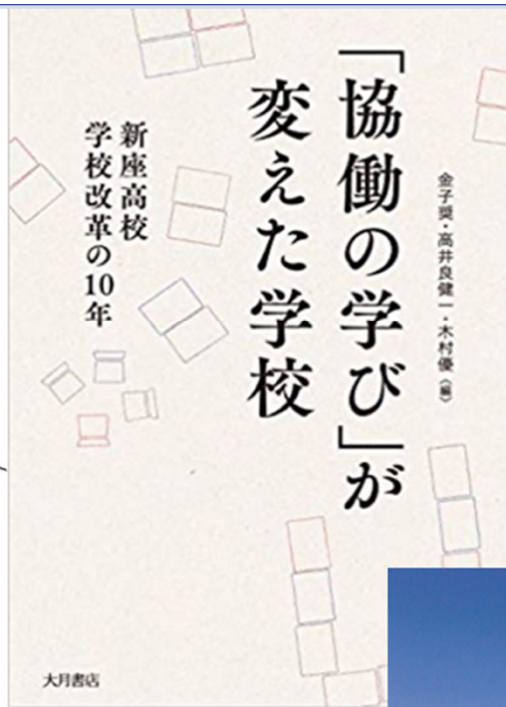


風間書房

2015年



2015年



2018年



2019年



2022年

個別の授業研究から、教師が専門職として成長し続け、学校教育の革新をもたらす螺旋型の省察のサイクルへ！

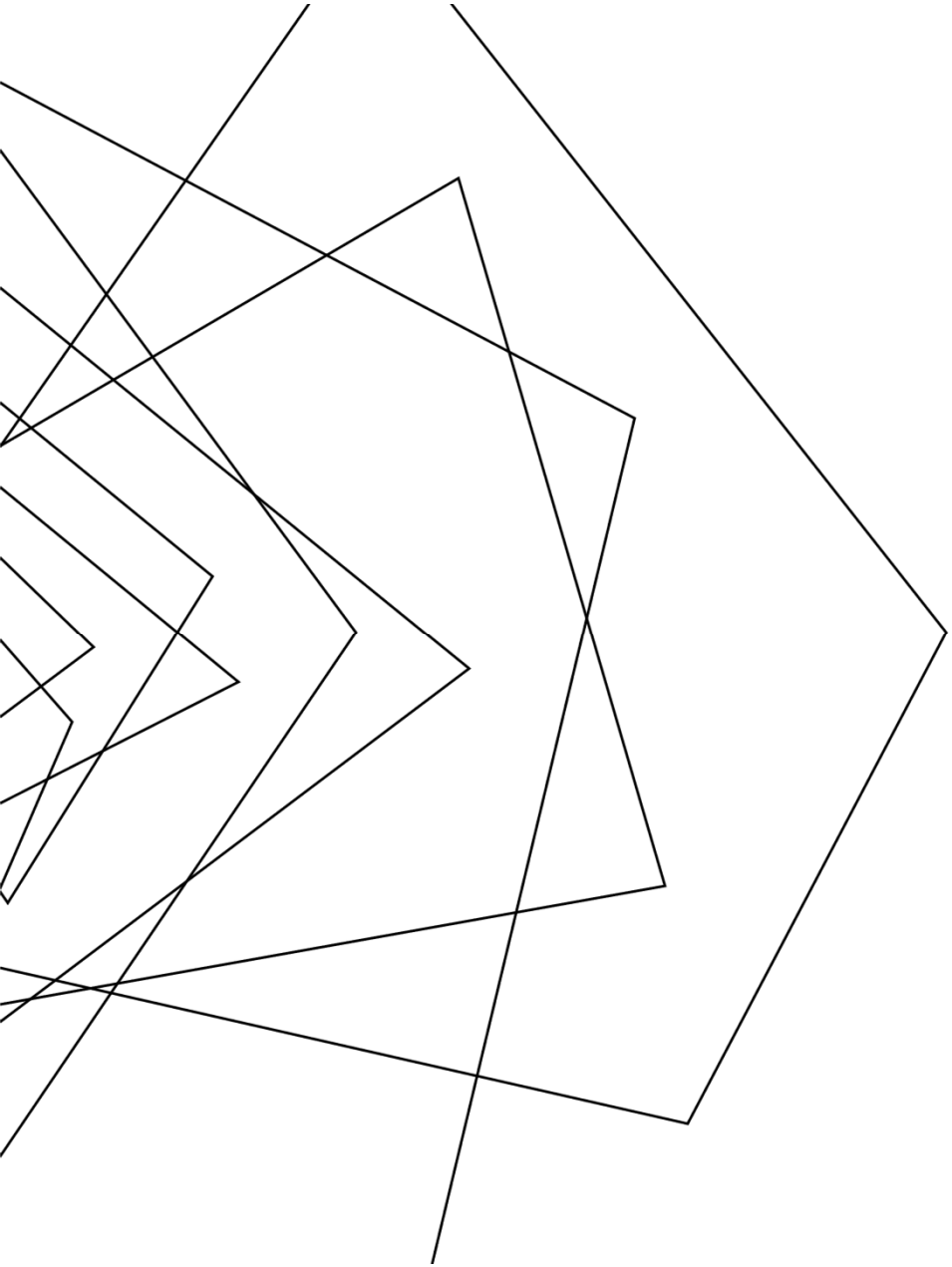
それではご覧ください

24th Jun, 2024 溝上慎一の教育論（動画チャンネル）

教師の専門性のパラダイムシフト

福井大学連合教職大学院 木村 優

u-kimura@u-fukui.ac.jp



トピック

1 問題関心

日本の教師政策と教職専門性スタンダード

2 教師の専門性をめぐる言説の展開

時代の変化、社会の変化、公教育の変化を受けて

3 教師の仕事と専門職の資本

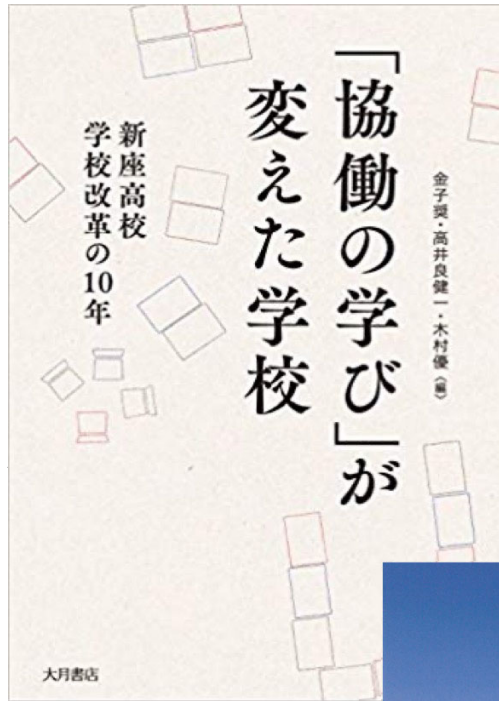
文化を知り、特性を越えて

4 協創する専門職へ

トランスフォーメーション/パラダイムシフト



2015年



2018年



2022年



2015年



2019年

3

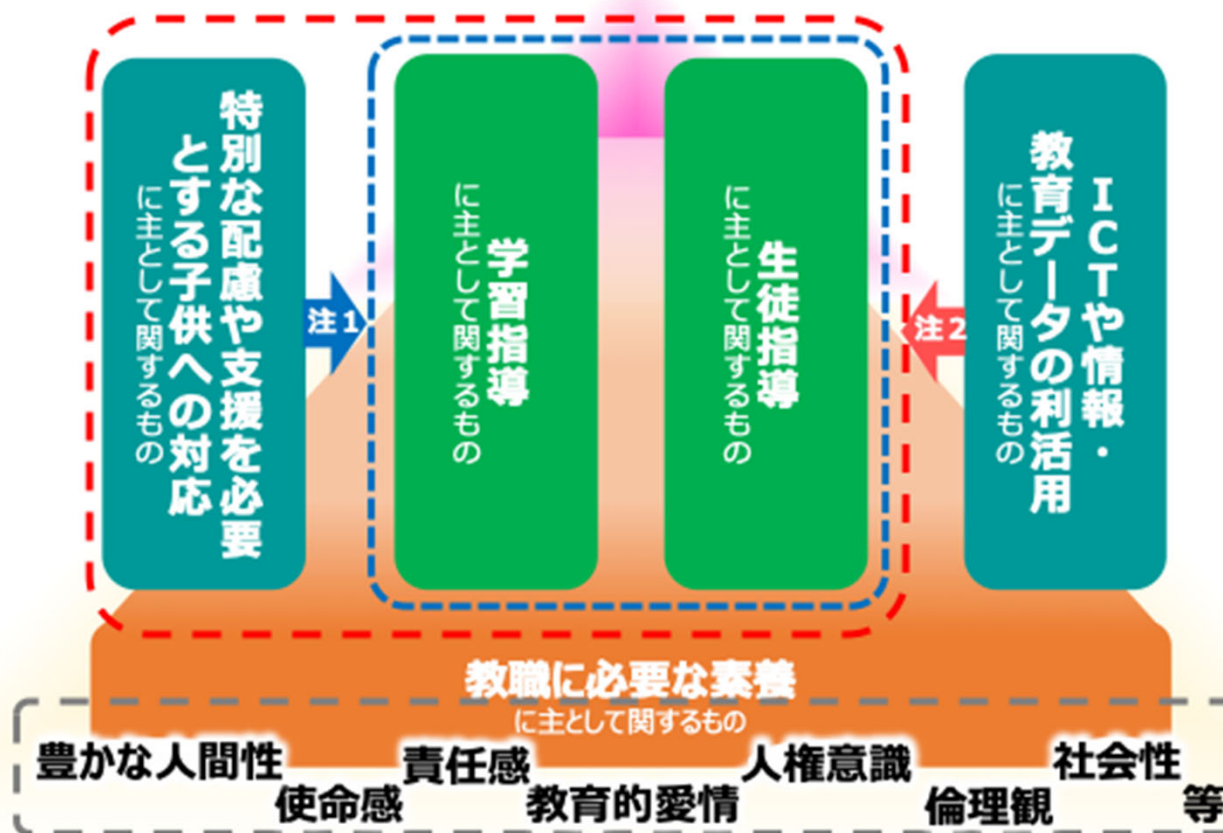
個別の授業研究から、教師が専門職として成長し続け、学校教育の革新をもたらす螺旋型の省察のサイクルへ！

授業の実践記録、授業参観でのフィールドノート、参観記録とそれらを共有する多層的な省察に支えられた、従来の実践を変える新しい授業研究のすすめ。基本となる理論と、授業の見方から、記録の書き方、授業研究会の組織・運営・内容まで、その実際と拠所を懇切に解説。小中高の実践記録・参観記録の事例付。

新曜社

問題関心

「教師に共通的に求められる資質の具体的内容」



※ 上記に関連して、**マネジメント、コミュニケーション（ファシリテーションの作用を含む）、連携協働**などが横断的な要素として存在

注1) 「特別な支援・配慮を必要とする子供への対応」は、「学習指導」「生徒指導」を個別最適に行うものとしての位置付け

注2) 「ICTや情報・教育データの利活用」は、「学習指導」「生徒指導」「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」をより効果的に行うための手段としての位置付け

問題関心

福井県教員育成指標

福井の教育が目指す育てたい人間像

自らの個性を発揮し、人生を切り拓くために
挑戦し続ける人

多様な人々の存在を認め、
協働して新たな価値を生み出す人

ふるさとや自然を愛し、
いっどこにいても社会や地域に貢献する人

福井が求める教師像

校種・教科等に関する
専門的知識・実践的技能
を持った人

専門分野に偏らない幅広い教養を身につけ、
自立した社会人としての良識や
幅広い視野を持った人

子どもたちはもとより、同僚や家庭、
地域社会と円滑な人間関係を築き、
課題に対して臨機応変に対応できる人

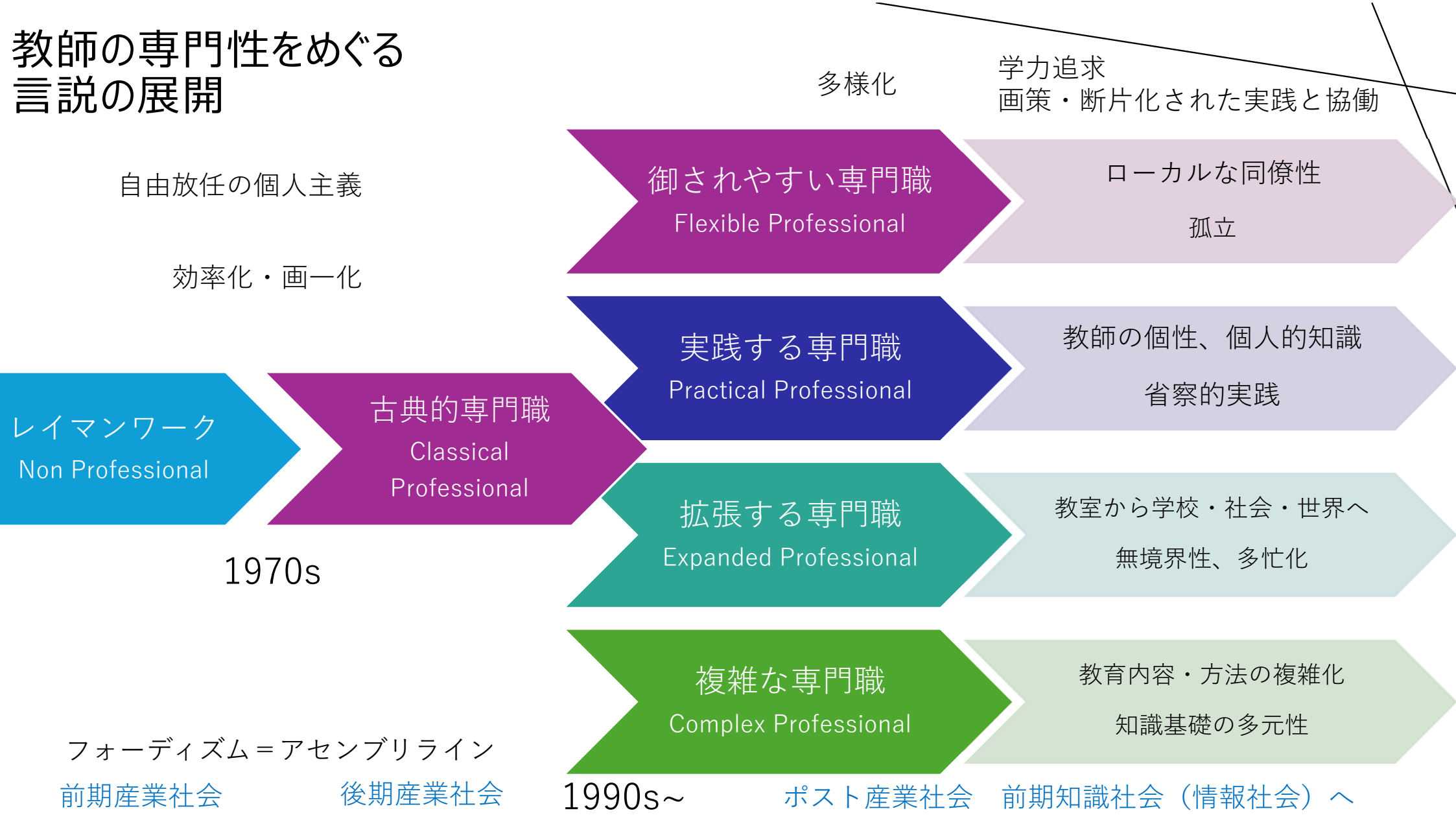
教育に対する情熱・使命感に
燃え、常に学び続ける
向上心を持った人

資質・能力	ステージ	福井県が求める採用時の姿	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	ステージ	管理職		
			教員としての基盤を固める	中堅教員・ミドルリーダーとして教育活動を牽引する	経験を生かして指導・助言し、組織的な運営をする			トップリーダーとして教育活動を推進する	
素 養	教育的愛情 使命感 責任感	・子どもに対する愛情 ・教職への情熱	・子どもの個性を尊重し、夢と希望、豊かな人間性を育む熱意 ・教職に対する使命感、誇り、責任感	・学校教育を牽引する使命感、責任感	・組織的な運営を行う使命感、責任感 ・学校経営に積極的に参画する責任感	素 養	教育的愛情 使命感 責任感	・将来を担う子どもの成長に資する使命感や責任感の深い自覚 ・よりよい学校教育の実現に向けた努力	
	倫理観 人間性 社会性	・高い人権意識 ・豊かな人間性、広い視野 ・社会人としての一般常識	・確かな人権感覚、子どもの模範となる倫理観 ・人間的な魅力の涵養、信頼関係の構築(子ども、教職員、家庭、地域社会 など) ・謙虚な姿勢、法令の遵守、サービスの誠実かつ公正な遂行 ・市民としての役割の遂行と積極的な社会参画				倫理観 人間性 社会性	・豊かな人間性、広い視野、高い人権意識の醸成 ・子どもや教職員の示範となる言動 ・子ども、家庭、地域社会などとの信頼関係の構築	
	コミュニケーション力	・他者との意思の疎通と協働	・同僚性の構築、よりよい教育の実現に向けた教職員間の意思の疎通と共通理解、合意形成の推進 ・子ども、家庭、地域社会などとの円滑な意思の疎通				素 養	判断力 学び続ける力 探究心	・明確な教育理念と省察による自己の職能の成長 ◎正確で迅速な情報収集、整理、分析、共有(アセスメント) ・的確な判断を行う力 ・教育情報や国の動向、時代の流れの的確な把握
	学び続ける力 探究心	・学びの専門家としての学び続ける意欲 ・多様な社会体験への挑戦	・自ら学び続ける基盤の構築(課題の発見・解決の努力・省察する力) ・自主的な協働研究への積極的な参画	・専門性の深化とキャリアアップ ・学校内や専門分野における研究の牽引 ・若手教員の指導への積極的な関わり	・自らの実践の深化と改善 ・学校内や専門分野の組織的な研究の運営 ・教職員の資質・能力を高める指導、助言			創造的に 思考する力 コミュニケーション力	・幅広い教養と高い専門性、幅広い視点で、新たなものを創造する力 ・教職員との日常的な意見交換や情報共有をもとにしたよりよい民主的な職場環境の構築 ◎教職員同士および学校と家庭、地域、関係機関の相互作用による教育力の最大化(ファンクショナル)
学 習 指 導	教科等の専門性	・教科等を学ぶ意義の理解 ・教科等で培う力の把握	・教科等において、多面的・多角的な視点での研究の推進と専門性の向上 ・カリキュラムマネジメントの視点での研究の推進 ・福井の未来の担い手となるために、教科等において、人間性を育む教育を推進 ・幼・小・中・高を通じた学びの接続の視点での研究の推進 ・子どもの主体的な学び、確かな学力、生きる力の追究			指 導	業務改善 (働き方改革 に向けて)	・教職員の勤務時間の把握 ・勤務時間を意識した教職員の働き方の徹底と職場環境の構築 ・教職員の業務の明確化と外部人材活用、外部業務委託の推進 ・PTAや地域の理解を得るための取組	
	授業力	・教科等の基礎的な授業力 ・主体的・対話的で深い学びへの理解 ・探究的な学びの計画、立案	・教科等の特性や本質の理解 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、楽しくわかる授業 ・多様な授業形態を取り入れた個別最適な学びや協働的な学びへの工夫 ・主体的・対話的で深い学びへの工夫 ・指導と評価の一体化に基づく実践 ・子どもの学びの見取りの意義と実践 ・校内研究への主体的な取組み、積極的な授業公開の実施	・省察をもとにした授業改善 ・教科等の特性や本質の追究 ・主体的・対話的で深い学びの実現 ・多様な授業形態を工夫した個別最適な学びや協働的な学びの深化 ・教科等横断的なカリキュラムデザイン ・校内研究の中核として授業実践を牽引 ・若手教員への授業力を高める指導、助言	・広い視野での授業改善 ・教科等の特性や本質を理解した実践 ・主体的・対話的で深い学びの深化 ・多様な授業形態を工夫した個別最適な学びや協働的な学びの深化 ・資質・能力を培う授業の提案 ・学校全体の授業力向上に係る企画 ・学校内の中心で示範となる授業実践の推進 ・校内研究の中心として組織を運営 ・学校内外の教職員への指導、助言			・学校環境の特性と課題の把握、学	
	福井の教育力を支える研究・連携	・福井の教育の特長の理解 ・「ふるさと福井」を大切に思う心	・子ども自身がその個性に気づき伸ばしていけるような「引き出す教育」、学びを自ら進んで「楽しむ教育」を進めるための授業の実践的研究、協働による研究体制、同僚性の構築 ・縦もち教科担任制の運営、教科の学びの系統性の構築 ・幼・小・中・高の接続の視点を持った教育の推進 ・研修や自主研究会への主体的な参画 ・教員間の世代間交流による優れた教育力の継承						

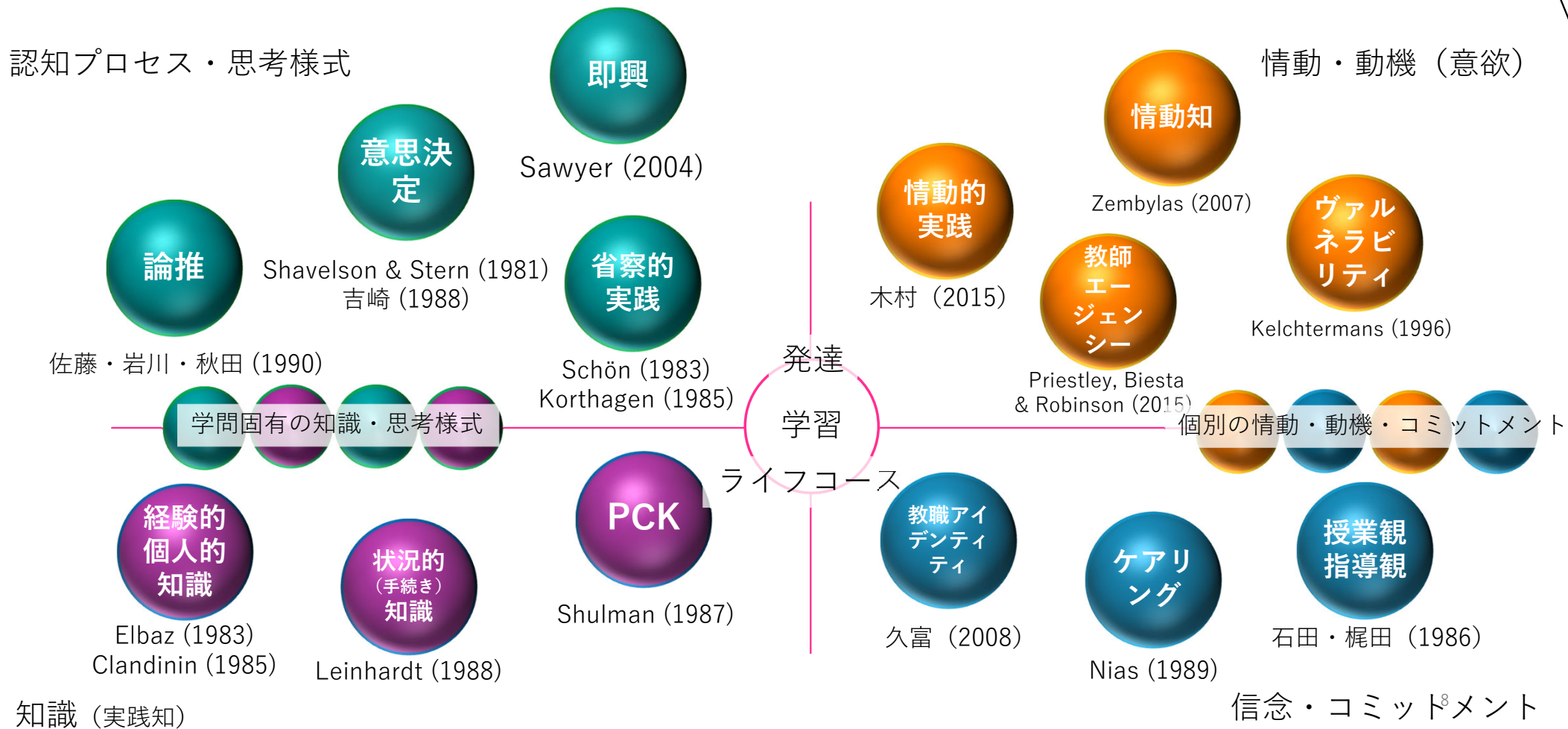
問題関心

導 力	共通	ICTや情報・教育データの利活用	・ICT活用の理解 ・ICT活用の技能	・授業でのICTや情報・教育データの積極的な活用 ・生徒指導、校務など学校全体でのICTの積極的な活用の推進 ・子どもの情報活用能力を育成する授業の工夫					
		特別な配慮を要する幼児・児童・生徒への対応	・子どもの個性、特性に応じた特別な配慮や支援、特別支援教育の基本的な知識	・子どもの個性、特性に応じた特別な配慮や支援、特別支援教育の理解、実践 ・合理的配慮に対する理解、実践	・子どもの個性、特性に応じた特別な配慮や支援、特別支援教育の中核として実践を牽引 ・子どもの個性、特性に応じたキャリア教育の推進	・チームの責任者として、子どもの個性、特性に応じた特別な配慮や支援、特別支援教育に関する組織的な対応の企画・調整と教職員への指導、助言 ・関係機関と協働した課題の改善、解決			
	生徒指導	幼児・児童・生徒理解	・子どもたちの多様化を踏まえた、一人一人の子どもの理解の重要性の認識 ・子どもの発達段階への理解 ・一人一人に向き合う意識	・子どもの個性、特性の理解 ・インクルーシブ教育の視点を踏まえた、認め合い高め合う学級経営の実践	・学級および学年全体の子どもの理解 ・学年の生徒指導の中核として、子どもの個性、特性に応じた諸課題への対応	・組織的な学年経営と学校全体の子どもの理解 ・子どもの個性、特性に応じた組織的な生徒指導の企画、運営			
		幼児・児童・生徒に応じた支援課題への対応や支援	・子どもたちの多様化を踏まえた、個や集団への支援や指導についての理解 ・一人一人の子どもに寄り添う態度、子どもの声に対する傾聴 ・多様な子どもに対する寛容の心と態度	・子どもの個性や特性、課題に応じた支援や指導 ・子どもの特性を理解した原因分析力 ・学校の生徒指導の方針に対する理解 ・報告・連絡・相談を通じたチームでの生徒指導の実践 ・家庭などとの信頼関係の構築、連携、協働	・チームの中核として子どもへの適切な支援や指導 ・子どもの個性、特性に応じた生徒指導方針を基にチームの中核として集団を牽引 ・若手教員に対する適切な指導、支援 ・家庭、地域社会などとの信頼関係の構築、連携、協働	・チームの責任者として教職員に対する指導、助言 ・子どもの個性、特性に応じた組織的な生徒指導方針の立案 ・チームの責任者として役割と責任を明確にした組織的な対応の企画・調整 ・速やかな情報の共有と適切な管理 ・家庭や地域、関係機関との連携、協働			
マネジメント 人材育成	業務改善(働き方改革に向けて)	・効率的な時間管理に対する意識	・自己の勤務時間の管理 ・PDCAサイクルを意識した、効率的、効果的な業務遂行の工夫 ・業務効率化のための積極的なICT等の活用と推進	・チームの中核として、効率的、効果的な業務遂行の工夫 ・校務分掌や学年活動における会議や行事等の精査と精選の提案と実践	・チームの責任者として、若手や中堅教員に対する働き方への示範と助言 ・学校教育活動全体の精査と精選の具体的提案と組織的な実践				
	学級経営 学年経営 学校経営	・理想とする学級像の形成	・一人一人の子どもが活躍し、互いを認め合い安心してすごせる学級経営 ・スクールプランの達成に向けた教職員の協力的な実践 ・報告・連絡・相談による教職員間の協働	・学年のリーダーとして率先して協働的活動を牽引 ・スクールプランの達成に向けて、中核として学校を牽引 ・カリキュラムマネジメントを意識した協働的活動の牽引 ・若手教員を抱える課題の理解、支援	・学級間、学年間の連携を意識した学校経営への参画 ・スクールプランの達成に向けて学年や分掌の責任者として組織的な運営 ・カリキュラムマネジメントの視点での組織的な運営 ・協働するネットワークの構築と指導、助言				
	社会の変化への対応	・学校現場の現状の理解 ・社会情勢(国際感覚・多様性)に対する理解	・学校の実態、Society5.0等の社会情勢の変化、教育改革の動向に対する理解	・学校の実態、Society5.0等の社会情勢の変化、教育改革の動向に対する具体的な方策の提案と実践	・学校の実態、Society5.0等の社会情勢の変化、教育改革の動向に対する具体的な方策への指導、助言と組織的な実践				
	学校安全 危機管理	・学校安全、危機管理に関する基礎的な知識、理解	・学級や集団の適切な安全管理 ・勤務校の危機管理体制に対する理解	・チームの中核としての学校安全、危機管理上の課題への対処 ・適切な安全管理、結果を予測した危機管理の徹底	・チームの責任者としての学校安全、危機管理のマネジメント ・学校の事件、事故の対処と未然防止に対する教職員への指導、助言				
	人材育成	・様々な課題に対応する力	・学校内外の研修や自主研究への参画	・若手教員に対する指導、助言	・校内研修、自主研究の企画、運営				
	連携 協働	組織における協働	・仲間と協働して、創造する経験 ・協働の良さを子どもに発信する力	・教職員間の同僚性の構築 ・チームで対応することへの理解と実践	・ミドルリーダーとしての自覚と積極的な行動 ・チームの中核として教員集団を牽引してチームで対応する力を向上	・チームの責任者として同僚性が発揮できる職場環境の構築			
福井の力	家庭や地域社会との連携	・地域社会に貢献する経験 ・地域社会の中で子どもを育成する意義の理解	・家庭、地域社会、関係機関との連携、協働のネットワークの形成 ・家庭、地域社会への積極的な情報発信と良好なコミュニケーションの構築						
	「ふるさと福井」の教育	・「ふるさと福井」への理解 ・福井の教育をよりよくしていく心と態度	・福井の教育の充実に向けて、「ふるさと福井」を学び続ける態度と自己啓発力(「ふくい愛」)の向上 ・「ふるさと福井」独自の教材づくりと活用した授業の実践(「ふるさと福井の先人 100人」「古典音読・暗唱ノート」「郷土新聞」「NIE」など)						
学校経営者としての専門性(経営・組織マネジメント)	組織マネジメント						・学校環境の特性と課題の把握、学校運営のビジョンの明示 ・学校評価を分析して学校運営のビジョンとスクールプランを策定する力 ・スクールプランを実現する具体的な方策の決定 ・組織運営に関わる内部及び外部環境の把握と強みを生かした戦略的な組織づくり ・一人一人の教職員が意欲を持って活動できる機会の構築、適性に応じた職務の分掌による組織運営 ・家庭、地域と連携した学校づくり ・子どもの個性、特性に応じた指導、支援を徹底する組織づくり ・GIGAスクール構想の実現に向けたリーダーシップの発揮 ・特別支援教育のコーディネート力の向上と組織的なインクルーシブ教育の推進		
	教職員理解 人材育成						◎教職員の資質・能力や適性の把握とキャリアパスへの助言 ・目標管理票と面談、報告・連絡・相談を通じた教職員の現状の把握と業務に対する的確な指導 ・教職員の持ち味や新しいアイデア等の学校運営への活用 ・教職員とのコミュニケーションと同僚性、協働性を高める人材育成 ◎対話に基づく主体的な研修受講奨励		
	学校安全 危機管理						・安全な環境での教育活動の展開 ・生徒指導上の問題行動の未然防止に対する教職員への指導、助言および適切な対応 ・学校安全マニュアルの遵守、施設の点検、安全管理の検証、徹底 ・危機管理マニュアルに基づき、トップリーダーとして校内組織と関係諸機関との連絡、調整 ・地域社会との協力関係の構築、危機管理体制の整備		
財務管理						・学校の実態に応じた計画的な教育環境整備と設備、備品等の充実 ・事務職員と連携した予算の適正で計画的な執行管理			
家庭や地域社会との連携・折衝						・スクールプランや学校評価の家庭や地域社会への効果的な発信と意見集約 ・家庭や地域社会の学校への期待、関心の把握と教育活動への活用 ・地域の教育資源の積極的な活用			

教師の専門性をめぐる 言説の展開



教師の専門性をめぐる 研究の展開と布置



教師の専門性をめぐる 言説の展開

自由放任の個人主義

効率化・画一化

レイマンワーク
Non Professional

1970s

古典的専門職
Classical Professional

フォーディズム = アセンブリライン
前期産業社会 後期産業社会

御されやすい専門職
Flexible Professional

実践する専門職
Practical Professional

拡張する専門職
Expanded Professional

複雑な専門職
Complex Professional

1990s~

多様化

学力追求
画策・断片化された実践と協働

ローカルな同僚性
孤立

教師の個性、個人的知識
省察的实践

教室から学校・社会・世界へ
無境界性、多忙化

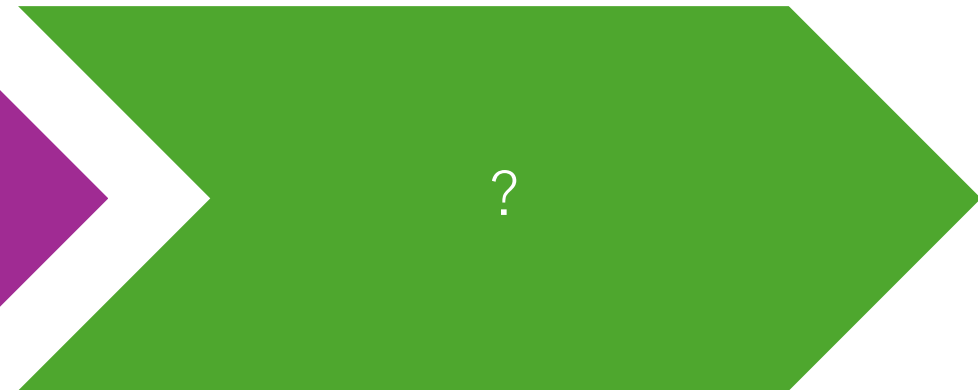
教育内容・方法の複雑化
知識基礎の多元性

ポスト産業社会 前期知識社会（情報社会）へ

教師の専門性をめぐる 言説の展開

- 同僚性
- 個人的知識
実践
- 社会・世界へ
多忙化
- 法の複雑化
多元性

多次元化
多面化



Hargreaves, A. & O'Connor, M. (2018) Collaborative professionalism:
When teaching together means learning for all, Corwin

2010s~

知識社会 (情報社会)

IO
↓

ウェルビーイング
スマートシティ
IOA

2030s~

知識社会 (超AI・超スマート社会)

ムーンショット

シンギュラリティ


$$I + P = C \blacktriangleright C + F = T$$

$$PC = f(HC, SC, DC)$$

教師の仕事の特性

民主主義社会の発展をみちびく
最重要エージェント 教師

子どもたちのエージェントをはぐくみながら
自らのエージェントを
見つけ、育み、発揮していく

Individualism + **P**resentism = **C**onservatism
個人主義 現在主義 保守主義



ダン・ローティ『スクールティーチャー：教職の社会学的考察』（佐藤学他（監訳）、学文社、2021年）



教師の仕事の特徴

民主主義社会の発展をみちびく
最重要エージェント 教師

子どもたちのエージェンシーをはぐくみながら
自らのエージェンシーを
見つけ、育み、発揮していく

> **I**ndividualism + > **P**resentism = > **C**onservatism
個人主義 現在主義 保守主義

Collaboration + **F**uture-oriented = **T**ransformation
協働 未来志向 変革



「令和の日本型学校教育」の構築

子ども
一人ひとりが
異なる存在

個別最適な学び
（「個に応じた指導」）
指導の個別化と学習の個性化を
学習者の視点から整理

協働的な学び
探究学習や体験活動等を通じ
子供同士あるいは多様な
他者との協働学習

人は他者と
共に学ぶことで
成長する

子供の学び

幼児教育

- 小学校との円滑な接続、質の評価を通じたPDCAサイクルの構築等により、質の高い教育を提供
- 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で達成感を味わいながら、全ての幼児が健やかに育つことができる

高等学校教育

- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力や、社会の形成に主体的に参画するための資質・能力が育まれる
- 地方公共団体、企業、高等教育機関、国際機関、NPO等の多様な関係機関との連携・協働による地域・社会の課題解決に向けた学び
- 多様な生徒一人一人に応じた探究的な学びや、STEAM教育など実社会での課題解決に生かしていくための教科等横断的な学び

義務教育

- 新たなICT環境や先端技術の活用等による学習の基盤となる資質・能力の確実な育成、多様な児童生徒一人一人の興味・関心等に応じ意欲を高めやりたいことを深められる学びの提供
- 学校ならではの児童生徒同士の学び合い、多様な他者と協働した探究的な学びなどを通じ、地域の構成員の一人や主権者としての意識を育成
- 生活や学びにわたる課題（虐待等）の早期発見等による安全・安心な学び

特別支援教育

- 全ての教育段階において、インクルーシブ教育システムの理念を構築することを旨として行われ、全ての子供たちが適切な教育を受けられる環境整備
- 障害のある子供とない子供が可能な限りともに教育を受けられる条件整備
- 障害のある子供の自立と社会参加を見据え、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備

「令和の日本型学校教育」を担う 新たな教師の学びの実現に向けて

教師
一人ひとりが
異なる存在

個別最適な教師の学び
（「個に応じた指導」）
指導の個別化と学習の個性化を
学習者の視点から整理

協働的な教師の学び
探究学習や体験活動等を通じ
教師同士あるいは多様な
他者との協働学習

教師は他者と
共に学ぶことで
成長する

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）

（令和3年1月26日 中央教育審議会）

Society5.0時代における教師及び教職員組織の在り方

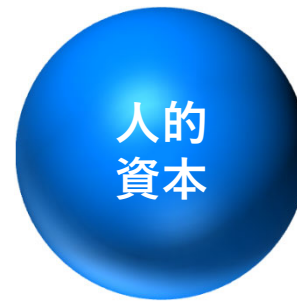
【基本的な考え方】

- 教師に求められる資質・能力は、これまでの答申等においても繰り返し提言されてきたところであり、例えば、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力などが挙げられている。
- AIやロボティクス、ビッグデータ、IoTといった技術が発展したSociety5.0時代の到来に対応し、教師の情報活用能力、データリテラシーの向上が一層重要となってくると考えられる。
- 教師や学校は、変化を前向きに受け止め、求められる知識・技能を意識し、継続的に新しい知識・技能を学び続けていくことが必要であり、教職大学院が新たな教育課題や最新の教育改革の動向に対応できる実践力を育成する役割を担うことも大いに期待される。
- 多様な知識・経験を持つ人材との連携を強化し、そういった人材を取り込むことで、社会のニーズに対応しつつ、高い教育力を持つ組織となる必要がある。

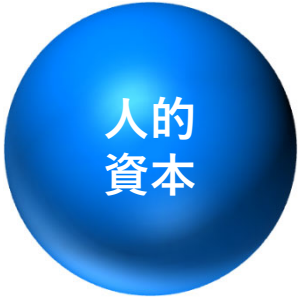


教師の専門性 Teachers Professionalism

知識
スキル
適正
心構え
資格



人的
資本



知識

学問の知識 教科内容の知識
カリキュラムの知識 教育方法の知識
特別活動の知識 子ども集団の知識
発達の知識 子ども個人の知識
評価の知識 法律の知識
情報の知識 社会の知識
などなど

スキル

教えるスキル 育てるスキル
教材活用スキル テスト作成スキル
教具活用スキル ICTスキル
集団形成スキル 生徒指導スキル
部活指導スキル 進路指導スキル
相談スキル 対人関係スキル
感情コントロールスキル
などなど

適正や心構え

教職への使命感・誇り
子どもに対する愛情・責任感
学び続ける向上心
社会性 教養
などなど

専門職としての教師の資本 Professional Capital



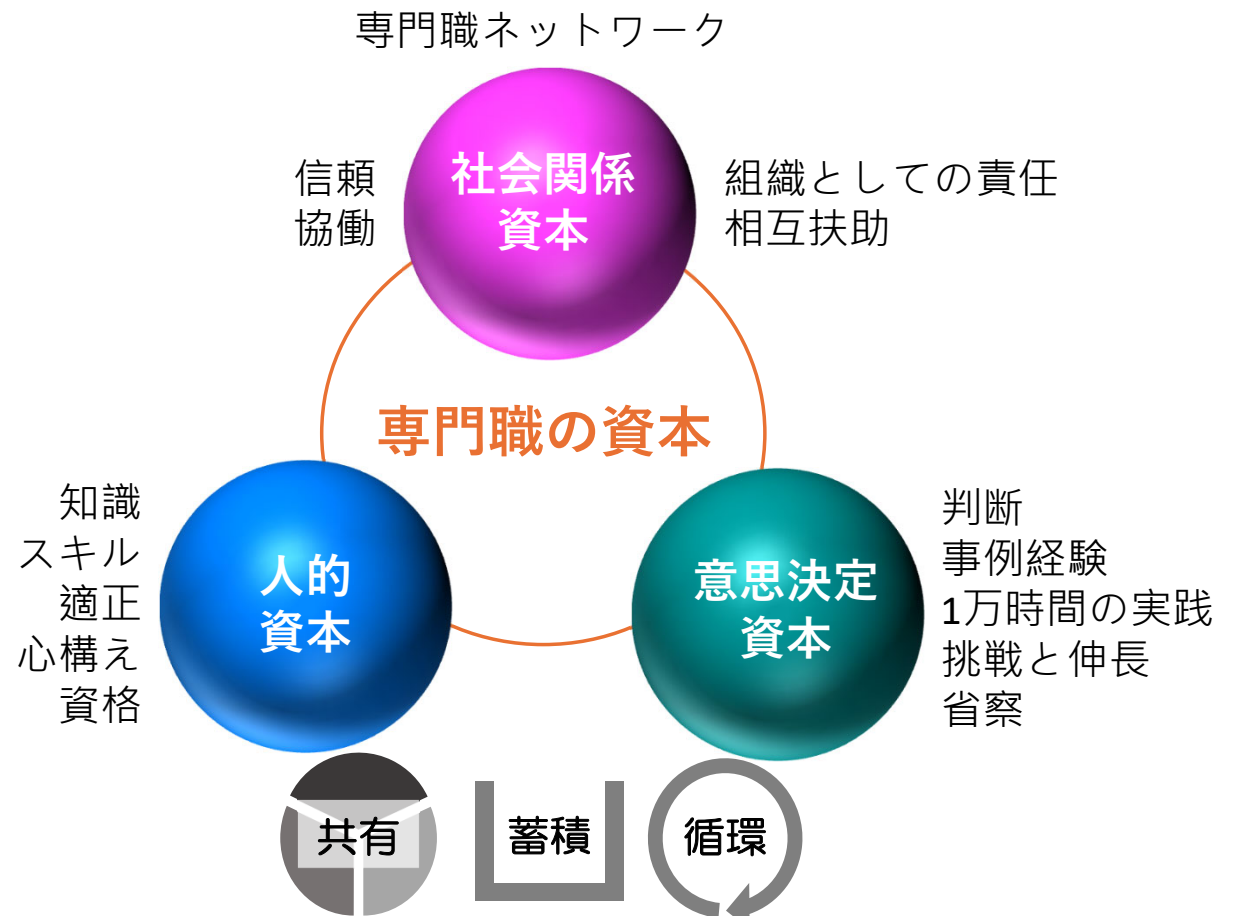
知識
スキル
適正
心構え
資格

人的
資本

意思決定
資本

判断
事例経験
1万時間の実践
挑戦と伸長
省察

専門職としての教師の資本 Professional Capital



教職に必要な素養 に主として関するもの

- ・「令和の日本型学校教育」の実現に向けた「学校及び教職の意義や社会的役割・服務等を理」するとともに、国内外の変化に合わせ、常に学び続けようとしている。
- ・豊かな人間性や挨拶意識など、他の教職員や児童、保護者、地域住民等と、自らの意見も効果的に伝えつ、円滑なコミュニケーションを取り、良好な人間関係を構築することができる。
- ・「学校組織マネジメント」の意義を理解し、たとえ、限られた時間や資源を効率的に用い、学校運営の持続的な改善を支えられるよう、校務に積極的に参画し、組織の中で自らの役割を果たそうとしている。
- ・自らの学びの強み、弱みを理解し、自らの力だけではできない課題を積極的に捉え、家庭・地域等も含め、他者との協力や関わり、連携協働を通じて課題を解決しようとする姿を身に付けている。
- ・児童や教職員の生命・心身を脅かす事故・災害に普段から備え、様々な場面に対応でき、危機管理の知識や視を備えている。

学習指導 に主として関するもの

- ・関係社会、学習指導要領や、児童の心身の発達や学習過程に関する理に基づき、児童が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善など、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、学習者中心の授業を創ることができる。
- ・「学校組織マネジメント」の意義を理解し、教科等横断的かつ占め教育課程の評価上の、物的な体制の確保・改善等の観点をもつて、組織的かつ計画的に教育課程を編成・実施し、常に学校の実態に応じて改善しようとしている。
- ・児童の興味・関心を引き出す教材研や、他の教師、協働した授業研などを行いながら、授業設計・実践・評価・改善を行うことができる。
- ・各教科等におけるそれぞれの特質に応じた見方・考え方を働かせながら、資質・能力を育むために必要とな、各教科等の専門的知を身に付けてい。

生徒指導 に主として関するもの

- ・子供一人一人の特性や心身の状況を捉え、良さや可能性を伸ばす姿を身に付けている。
- ・生徒指導の意義や原理を理解し、他の教職員や関係機関等と連携し、つづ、個に応じた指導や集団指を実践することができる。
- ・教育相談の意義や理論（心理、認知に関する基礎的な知識を含む）を理解し、児童一人一人の課題解決に向け、個々の悩みや思いを共感的に受け止、学校生活への適応や人格の成長への指を行うことができる。
- ・キャリア教育や進路指導の意義を理解し、地域・社会や産業界と連携しながら、学校の教育活動全体を通て、子供、自分らしい生き方を実現するための力を育成することができる。
- ・児童の心身の発達の過程や特徴を理解し、一人一人の状況や課題を踏まえ、児童等との信頼関係を構築するとともに、それぞれ、可能性や活躍の場を引き出す集団づくり（学級経営）を行うことができる。

特別な配慮や支援を 必要とする子供への対応 に主として関するもの

- ・特別な配慮や支援が必要とする児童の特性等を理解し、組織的に対するために必要となる知識や支援方法を身に付けるとともに、学習上・生活上の支援の工を行うことができる。

ICTや情報・ 教育データの利活用 に主として関するもの

- ・学校におけるICTの活用の意義や理論、授業改善策（ICTを効果的に活用）するとともに、児童生徒等の情報活用能力（情報リテラシーを含む）を育成するための授業実践を行うことができる。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、児童生徒等の学習の改善を図るため、教育データを適切に活用することができる。

注)記述量と必要な学修量とは、必ずしも比例しない。

孤立する専門職 から 協働する専門職 へのパラダイムシフト

個の資質能力
(人的資本)

チーム力
(社会関係資本)

責任

信頼

独立

孤独

ネットワーク

協働

独力

相互扶助

極度の不安

恐れ

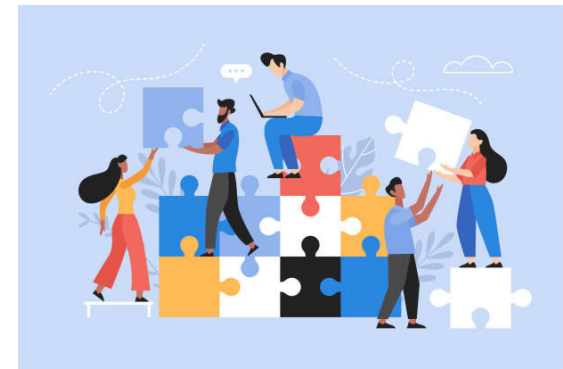
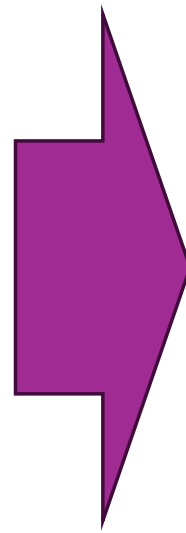
安心

哀しみ

喜び

孤立する専門職

協働する専門職



自信

協働する専門職 から 協創する専門職 へのトランスフォーメーション

チーム力
(社会関係資本)

協創力
(専門職の資本)

信頼

信頼

協働

協創

ネットワーク

パートナーシップ
コンソーシアム

相互扶助

相互扶助

安心

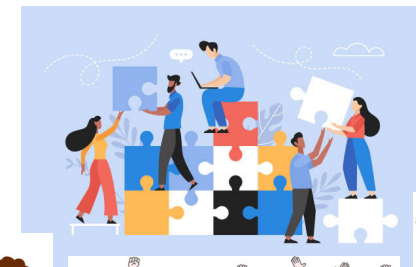
誇り

喜び

楽しさ

ウェル
ビーイング

自信



協働する専門職

協創する専門職

教師の専門性をめぐる 言説の展開

同僚性

個人的知識
実践

社会・世界へ
多忙化

法の複雑化
多元性

多次元化
多面化



2010s~

知識社会（情報社会）

IO
↓

ウェルビーイング
スマートシティ

IOA

2030s~

知識社会（超AI・量子社会）

ムーンショット

シンギュラリティ